

SHOW HEY シネマルーム

★★★

プルーフ・オブ・ライフ

2001 (平成13) 年4月3日鑑賞

Data

監督: テイラー・ハックフォード
出演: メグ・ライアン/ラッセル・
クロウ/デイビッド・モース

👁️👁️ みどころ

「平和ボケ」日本では想像もつかない人質テロ。
それを救い出す「人質交渉人」。現実(?)の世界はすごい。ラッセル・クロウとメグ・ライアンのコンビは最高。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<人質交渉人という仕事>

1998 (平成10) 年、サミュエル・L・ジャクソンとケビン・スペイシーが、二枚看板で出演した「交渉人」という映画があった。彼らは、シカゴ警察に所属する人質交渉人。つまり、誘拐や、立てこもり事件が発生した時、人質の生命を優先して、ねばり強く人質の解放のために、犯人と交渉 (ネゴシエーション) することを仕事とする職業だ。交渉人 (ネゴシエーター) には、言葉による説得力も必要だし、相手の心理状態を読みとる能力も必要。そして当然、冷静沈着さも要求される。

「プルーフ・オブ・ライフ」の主人公テリーを演ずるのは、1997 (平成9) 年のアメリカ映画「L. A. コンフィデンシャル」で力演し、1999 (平成11) 年の「インサイダー」、2000 (平成12) 年の「グラディエーター」と、最近非常に目立った活躍を続けている、ラッセル・クロウ。映画「交渉人」の国際版ともいべき役柄が、テリーの仕事、「人質交渉人」である。つまり、彼はゲリラやテロリストによって、外国に誘拐された「要人」の人質解放交渉に当たることを仕事としている。もっとも彼は、警察に所属しているのではなく、ロンドンのK&R (誘拐身代金) 企業に籍を置いているから、形式的にはサラリーマンだ。従って、要人が誘拐されて、人質となっても、その解

放については、当然、保険金や報酬問題がからむため、これらをクリアして、企業経営として成り立たなければ、仕事は受けないということになってしまう。これが、サミュエル・L・ジャクソンとケビン・スペイシーが、警察官の職務として「交渉人」になっていた映画との違いだ。

従って、この映画の舞台はインターナショナル。アメリカ人のダム建設技師、ピーターは、反対派ゲリラに誘拐され、南米の国テカラ（架空の国）に監禁され、莫大な身代金を要求されている。

<これぞプロ・・・>

いったんこの事件に首をつっこんだものの、会社から、この事件は金にならないから手を引くように言われたテリーは、ピーターの妻アリス（メグ・ライアン）から「あなたを信じていたのに！」と言われて動揺する。そして今度は、会社の仕事としてではなく、純粋に彼女のために、人質交渉の仕事に着手することを決意する。もちろん、この仕事は危険を伴う命がけの仕事だから、テリーがこの仕事に、いわばボランティアで入っていったのはアリスとの微妙な男女の感情がある。もちろん、アリスは人妻であり、この仕事は人質とされているアリスの夫を解放するものだから、テリーの気持ちは複雑だ。しかし、それはそれ。仕事と割り切れば、プロとして手際よく、突入に必要な準備を整えつつ、ゲリラと人質解放の身代金交渉に入る。当然、この交渉は困難を極めるが、その活動には、常にアリスが側にいるため、極限の緊張状態の中で、2人の思いはしだいに強く結びついていく・・・。

他方、人質のピーター。彼も、黙って捕まっているだけの「能無し」ではなかった。知恵を働かせて、ゲリラのキャンプ地の地図を入手したピーターは自ら命がけて脱出をはかった。

ちょうどその時、ようやく身代金の額を決定したテリーは、仕事の相棒アリスと共に、身代金を持って人質ピーターの引き取りのために現地に入った。そして・・・。

結果的に、人質解放は成功する。つまりアリスの夫ピーターは、無事救出されるのだ。その結果、恋する大人の情熱と分別はどうなるのか・・・。また仕事を終えたテリーはどうなるのか・・・。

<メグ・ライアンの魅力>

最近、いい役に当たりっぱなしのラッセル・クロウもいいが、メグ・ライアンは無条件にいい。1998（平成10）年の「シティ・オブ・エンジェル」や「ユー・ガット・メール」にも出演した。コメディでもいい味を出す美人女優だが、やはりこの作品のように、深刻な選択を迫られる緊張感のあるストーリーの方が、彼女の美しさがより光るように思

える。とても40歳とは思えない輝きだ。

2001（平成13）年9月記